

第8回日本学校教育相談学会中国四国ブロック研修会 実施要項

- 1 目的
日本学校教育相談学会中国・四国ブロックの会員の資質向上
- 2 主管
日本学校教育相談学会岡山県支部
- 3 後援 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会
倉敷市教育委員会
- 4 参加対象
日本学校教育相談学会中国・四国ブロック会員
学校教育相談に興味がある教職員で、秘密の保持のできる方 等
- 5 参加人数
80名程度
- 6 日時
平成29年11月18日(土) 10:20~16:00
- 7 場所
「ピュアリティーまきび」(岡山駅から徒歩7分)
岡山市下石井2丁目6-41 TEL 086-232-0511
- 8 日程
10:00~10:20 受付(全体会場「千鳥」の前で行います。)
10:20~10:30 開会行事
10:40~12:30 講演会
講師 春日井敏之先生 立命館大学大学院教職研究科長・文学部教授
演題 「対人援助職としての教師と学校教育相談
ーいじめ・不登校、保護者へのチーム対応ー」
13:50~15:50 分科会
15:50~16:00 閉会行事(全体会場 千鳥)
- 9 分科会(13:50~15:50)

【第1分科会】(高知県) テーマ 「SCとSSWの連携による『自主講座(コミュニケーション)』の試み」

<内容>

「本校は、これまでも個別の支援を大切にしながら生徒に寄り添う取り組みを推進してきていますが、現在、文部科学省の委託事業「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」(平成27~29年度)を受け、生徒の自立を促すための“自立支援プログラム”と“地域支援プログラム”の作成と実践、その評価に取り組んでいます。

今回の発表は、学校に常駐するスクールソーシャルワーカーと教育相談コーディネーター(SC)が、連携・協働して“自立支援プログラム”の取り組みの一つとして実施した自主講座についての取り組みです。「人と何を話してよいかわからない」「人と話すとき緊張する」「会話が続かない」など、他者とのコミュニケーションに戸惑いや課題を感じている生徒を対象に、昨年度実施した自主講座(全10回)について、その内容、成果と課題についての発表であり、

この講座は、教室で全生徒を対象とした啓発的なものではなく、課題を抱える生徒に対して改善的なアプローチを試みた実践です。

<講師紹介>

○武井 夕佳 太平洋学園高等学校 教諭：SSW

着任4年目。本校着任以前から約5年間、地域生活支援センターの職員として本校の個別支援ホームの生徒の支援に関わってきた。社会福祉士・精神保健福祉士の資格を有し、SSWとして生徒・保護者支援だけでなく地域と学校を繋ぐ役割を担っている。

○光富 祥 太平洋学園高等学校 校長

平成24年度より校長に就任。現在、本校の「個に寄り添う生徒支援」の取り組みを推進する先頭に立っている。

【第2分科会】（岡山県）

テーマ 「発達障害のある児童の理解と支援 ～行動化から言語化へ～」

<内容>

「育てる」「支援する」という行為は、様々な行動パターンを身につけさせたり、学習内容を理解させたりするような単なるスキル教育を行うことではなく、また、大人の「こうさせたい」という思いを一方向的に押しつけるものでもないと思われま。す。「支援するー支援される」という関係の中で、子どもも大人である教師の私たちもそれぞれに思いをもった主体としてあるはずですが、単に教育であるからと、よかれと思ひ何かをさせようとすれば、関係は次第に、「主ー従」のような縦の関係に傾いていきます。そのとき私たちは、自らの内面の葛藤を含め、その有り様を見つめ、問い直していかなければならないと思ひます。

今回は、私が出会った子ども達との関わりの中で、「させるーさせられる」「支援するー支援される」の関係から事例を見つめ、私の内面と児童への関わり、児童の様子（破壊的な行動から少しずつ自分の思いを言葉にできるようになる過程）などをお話ししようと思ひます。

<講師紹介>

○桑田 江里子 赤磐市立山陽東小学校

約20年前に登校困難な児童に出会ったことを契機に箱庭療法や遊戯療法の研修会に参加し、様々な活用例を学ぶ。小学校では、特別支援コーディネーター、人権教育、教育相談担当として校内連携を図った、特別支援学級担任として教育相談的な視点を生かしつつ学級経営に取り組んだりしている。その他、研修会でベーシックエンカウンターファシリテーターを行う。

【第3分科会】（愛媛県）

テーマ「こころのスキルアップ教育 — 学校で活用できる「認知行動療法」— 」

<内容>

認知行動療法（CBT）は、その人のものとのとらえ方（考え、認知）が、気分（感情）と体の反応、行動に大きく影響しているという原理を見つめ直すことにより、つらい気持ちを緩

和することを目指した精神療法（カウンセリング）です。この CBT の基本原理を取り入れた「こころのスキルアップ教育」は、小学校高学年から中学生を対象に、全 11 回の授業案を組み込んだ心の教育プログラムです。「こころのスキルアップ教育」では「悩みを乗り越えていくための方法」や問題解決に向かって「行動を選択していく方法」のほか、怒りの対処、コミュニケーションスキルなどについて具体的に学んでいけるように構成されています。

今回は、CBT の基礎理論についての簡単な説明の後、第 1 回の講座の一部を体験していただいたり、保健室や相談室で活用できるワークを行ったりするほか、ストレスや怒りの対処・いじめの予防的アプローチとしての効果について、また、教育現場での広がりについてもお話しする予定です。

<講師紹介>

○桐木 玉美（きりき たまみ） 高校教諭・臨床心理士

2007 年愛媛県から愛媛大学大学院に長期派遣され臨床心理学を専攻、2009 年、大学院修了。2010 年から臨床心理士としても活動している。高校では国語科の授業の傍ら、学校教育相談を担当し早期介入と校内外のネットワーク作りや、医療・行政を交えた多機関連携により生徒と保護者を共に支える取組を続けている。2014 年から、日本認知療法・認知行動療法学会理事長・大野裕（おおのゆたか）先生を会長とする「認知行動療法教育研究会」愛媛県支部長、四国推進委員長を務め、CBT の理論を取り入れた「こころのスキルアップ教育」を提案し、論文投稿や教育雑誌への執筆、研修や講演活動などにより、その普及に努めている。一連の研究や活動は、2016 年度 科学研究費助成事業の「奨励研究」に選ばれた。

【第 4 分科会】（広島県）

テーマ「主体的・対話的で深い学び」

<内容>

次期学習指導要領でも取り上げられた「主体的・対話的で深い学び」の一つの形として、「協同学習」の理念と技法がその代表としてあげられます。

「協同学習は、ペアやグループを使った学習のこと？」、「交流する時間をとれば、協同学習をしたことになる？」、「イベント的に取り組んではいるけれど、定着しない」など協同学習を実践していく中で、クリアにしておきたい問題です。

協同学習は、「認知と態度の同時学習」と言われます。技法だけでも、理念だけでも指導はできません。どちらも指導者が頭に入れた上で、体現できることが大切です。

協同学習の考え方と定義、協同学習を用いた授業の留意点、基本的な技法の手順と特徴を体験的に学ぶワークショップを予定しています。また、日々の授業に協同学習を取り入れるコツや実践の例を紹介し、「協同学習をやってみよう！」と思って帰っていただける研修にしようと思います。

<講師紹介>

○中井 俊之先生 小学校教諭・学校心理士

2010 年、広島市小学校教員として採用される。初任の時に出会った協同学習を取り入れ実践、学級経営に取り組む。小学校では、生徒指導主事、通常学級担任として教育相談的な視点を生かしつつ学級経営に取り組んでいる。その他、協同学習法についてのワークショップ、実践発表を行っている。2017 年 4 月より、日本教育新聞社「教えて先生！Q&A」に不定期で連載中。

※この研修会は、学校カウンセラー更新の時、全国規模の研修会として扱います。

※この研修会は、学校カウンセラー認定のためのポイントになります。

10 参加費
 会員 2,000円 非会員 3,000円

11 申し込み方法
 下記の問い合わせ先宛にFAXまたはEメールでお申し込みください。FAXの場合は別紙
 申込用紙をお使いください。Eメールの場合は、別紙申込用紙の項目にあわせてご記入ください。なお、申込者多数の場合は、先着順で受付させていただきます。申込者多数でお断りする場合は、事務局から連絡します。

12 申し込み締切
 平成29年10月30日（月）

13 問い合わせ先
 日本学校教育相談学会中国四国ブロック研修会 事務局

岡山市立福浜中学校 校長 三上政誉志
TEL086-262-1178 Fax086-262-1346
E-mail fukuhamac1@city-okayama.ed.jp
（急ぎの時）mikapapa701@me.com
〒702-8036 岡山市南区三浜町二丁目3-26